



説教者: 鄭南哲牧師

愛するクリスチャンレイズ信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお元気でしたか。季節の変わり目いまのごろ、みんな風とかひかないようにお気をつけて下さい。始まったこの10月にも愛するみなさんの心と体、ご家庭や職場、主の教会の上に主の豊かな御恵みが満ち溢れますように切にお祈り申し上げます。特に先週は教会9周年設立感謝礼拝として行なわれたVIP集会の時は110人以上の方々と共に集って礼拝を捧げることができました。そしてその後も2部お食事会、3部幸福な家庭セミナー、CSVIP友達招待行事、月曜日信託リーダー学び会まですべて恵まれ、必要さも満たされました。すべて主に感謝しましょう！そして、みなさんの献身的なお祈りと献身、ご奉仕ご協力と仕えに心から感謝申し上げます。これからさらに共にへりくだって一人一人を大事にし、共に愛し合い、励ましあって前進し続けるクリスチャンレイズ教会となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！

### 1. マタイの福音書と出エジプトの違い

聖書を読んでいると、我々には理解しきれない聖句に出会うときがあります。それは当然なことです。被造物である我々がどうやって神様の御言葉である聖書を全部理解し切れるのでしょうか。もしどうしても理解しがたい聖句を読んだらそれを一生懸命に解けようとしなくてください。聖書を個人的に解けようとするにつまづいてしまうからです。理解できないならそのまま置いて通る時がまし時があります。聖書は理解できる箇所だけ読むのにも時間が足りないほどです。まず理解できる御言葉だけでも十分恵まれる信仰の生活ができます。そうするうちに以前理解できなかった箇所も自然に分かるようになる場合がしばしばあると思います。たとえ、テストの時もまず知っている問題を解いていくべきであって初めから難しい問題で時間を取られてしまうと結局時間がたりなくて知っている問題さえも解かずに過ぎてしまうのではないのでしょうか。聖書を読む方法も同じです。理解できる御言葉から読んでいくのが良いと思います。

私にも理解できない聖書の箇所がたくさんあります。実はその中で一つが本文の御言葉でした。イエス様は旧約の出エジプトに記録された「目には目で、歯には歯で(出21:24)」と言われたのをあなたがたは聞いているが、あなたがたはそうしてはいけないと言われました。

愛する信仰の家族のみなさん！神様の御言葉は真理ですのでどんな場合でも変えることも変わることもありません。なのに、神様の御言葉である聖書において旧約と新約の御言葉が相反（そうはん）されるならそれはたいした深刻な問題にならざるを得ません。しかし、ある日早朝の祈り会の時、この箇所が理解できました。その時の喜びは言葉には言い表せないほどでした。ある事件が起こることには二つの種類の人に分かれます。加害者側と、被害者側です。出エジプトの御言葉を一言でまとめると、'責任'です。人にあやまちを犯して被害を与えた場合、責任から逃れようとしなくてその責任を負う人になりなさいということです。反面、マタイの福音書の内容を一言でまとめるとそれは'愛と赦し'です。人が自分にあやまちを犯した時には愛をもって赦しなさいという教えです。この御言葉どおりに生きれるなら、私たちの人生の座はなんとすばらしい天国のようになれるでしょう。あやまちを犯した人は出エジプトの御言葉を通してあやまちに対して責任を負おうとし、被害を受けた人はマタイの福音書によってあやまちを赦そうとするのなら、その二人の心ではどんなことが起こるのでしょうか。神様は我々に責任と赦しの心を持たせるために出エジプトとマタイの福音書の御言葉をくださったのです。しかし、我々の心はどうですか。人に被害を与えた時は出エジプトよりはマタイの福音書を引用しながら相手に赦しを求めます。だれでも人には責任から逃れようとする心があるからです。反面、自分が被害を受けた時は出エジプトを引用しながら相手に目には目、歯には歯で返しなさいと要求されます。我々には被害を受け、損害を受けた事に対して相手を心から赦す心がないことを神様は御存知だったのでこの命令をくださったのです。聖書を我々は自分勝手に読んで引用するため神様の計画された天国の喜びを逃がしてしまうのではないのでしょうか。あやまちを犯した時は自分の過ちと失敗を正直に認め、徹底的に責任を負うことができるクリスチャンになりますよう心からお祈り申し上げます。

ある執事さんから聞いた話です。その方は、ずいぶん前、友達の借金の保証人になったため、その借金を返さなければならぬ大変な目にあつたようです。友達が返済ができなかったため債権者が保証人になっていたその執事さんに友達の代わりに残りのお金を全部返すようにと要求したそうです。普通なら、友達の縁を切るか、最後まで借金を返さないようにと頑張るはずですが、しかし、その執事さんは債権者の要求にすなおにこたえました。

ただし、現金がないので、自分の家が売れるまで待っててくれるようにと頼みました。なんの文句もなく責任を負おうとする執事さんを不思議に思っていた債権者は何度も聞いたそうです。執事さんは自分はイエス様を信じるクリスチャンとして約束した以上その責任はかならずおうべきであると答えたそうです。そして、本当に住んでいた家を売って友達の借金を全部返してあげました。そして残りのお金でソウルの町の外れの小さいお家で住んだそうです。それから約10年が経ったそうです。ソウルの町外れの所も発展し、執事さんの家のすぐそばにカンナムのリバーサイドホテルが立ち、土地の価値が一気に何十倍になったそうです。執事さんは、"今この家を売ると以前売った家の3軒を買っても残るほど高くなっています。"と神様に感謝したそうです。

愛する信仰の家族のみなさん！自分の責任を認め、この執事さんのようにすれば神様が三倍で返してくださるというふうには言いたくはありません。しかし、神様は自分のあやまちを認め、最後まで責任を負おうとする人の人生をかならず守

って下さることを覚えて下さい。

## <2. 私のせいです。あなたのお陰です。!>

今日、この社会の問題は問題を追及する人は多いですが、責任を負おうとする人は少ないことにその問題があります。以前カトリックでは“私のせいです。”というシールを車に貼るキャンペーンをしたことがあります。本当にすばらしいキャンペーンだったと思います。あるキリスト教団体では“あなたのお陰です。”というキャンペーンを行なった時もあります。我々にも本当に必要な聖書的姿勢です。すべての人々が責任は自分のせいにし、徳と成果は他の人に譲れるならこの世は今よりどれだけ住みやすくなるのでしょうか。今日の社会が息苦しくなっている理由は責任は相手に持たせ、転嫁し、徳と賞賛は自分に向けさせようとしていることではないのでしょうか。？

旧約聖書のヨナ書のヨナ預言者は激しい嵐の中の舟の中でその舟に乗っていたみんな船が沈み溺れ死にそうになっていました。溺れる者は藁(わら)をも掴(つか)むというような心境で神様に懇願しながら、くじを引く場面が出ます。そのくじにヨナ預言者が当たった時、人々にこう言います。“ヨナは彼らに言った。「私を捕らえて、海に投げ込みなさい。そうすれば、海はあなたがたのために静かになるでしょう。わかっています。この激しい暴風は、私のためにあなたがたを襲ったのです。」(ヨナ書1:12)”ヨナ預言者は自分のあやまちを否定しないで、認めつつ心から神様の御前で悔い改めます。そして、他の人々を守るため、救うため自分の命を今捨てようとしている姿でした。どれほど徹底した責任感でしょうか。ヨナにたくさんの人間的な欠陥と問題があったのにもかかわらず、彼が神の人として選ばれたのはこのような神様と人々の前で徹底した責任感と関係がないと言えないと思います。神様は自分のあやまちを認め、目には目で、歯には歯で返そうとしている人を喜んでくださいます。徹底的な悔い改めとそれに沿った責任ある行いが伴わなければなりません。どんなことでも神様の御前で正直になり、責任を負うことのできるクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。

愛する信仰の家族のみなさん!

自分があやまちを犯すと責任を負い、人があやまちを犯すと慣用を持って接し、赦してあげる姿は、たしかに世の人々の目では、愚かで、損する人生にしか見えません。しかし、これがまさにキリスト者(クリスチャン)的な生き方ではありませんか。みなさんも人があやまちを犯した時それを心から赦す人となりますように切に願っています。実際、人が自分にあやまちを犯した時、赦して、もう一度チャンスを与えることは決してたやすい事ではありません。しかし、神様は我々にそのように生きることを願っておられます。この世には赦しがありません。それは我々の社会と家庭と教会がますますせちがらい世になっていく証拠ではないでしょうか。愛する信仰の兄弟、姉妹のみなさん!今主の御前で静まって自分自身を振り返って見て下さい。今まで我々は主なる神様に一万タラント借金を帳消しされた人のようにと聖書は教えてくださいます。しかし自分はあるにたくさんのものを免除され、帳消しされたのに、その人が自分に百デナリぐらいの借金の人を赦さず、牢に入れてしまうような生活をするなら、我々はどうやって神の人だと言えるのでしょうか。私たちは毎日神様に“我々に罪を犯した者を我々が赦したように我々の罪をも赦して下さい。”と祈ります。こう祈りながら人のあやまちと失敗は心から赦せないならどうやって神様に自分たちの罪とあやまちを赦してくださるように求めることができるのでしょうか。？

結論的に、自分のあやまちは徹底的に責任を負い、人のあやまちと失敗は心から赦してあげるクリスチャンになりますように心から祝福します。それが成熟したクリスチャンの当然の聖書的な信仰の姿勢であり、心構えであり、生き方なのです。

イエス様は我々に“だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。”(48節)と言われました。

ここで完全(テレイオスτέλειος)という言葉の意味は、完璧になりなさいという意味じゃありません。成長され、成熟されて欠如のない、欠けたところがない姿を言います。

まだ未熟な人は自分に寛大しながら、他の人たちにはいつも厳しく教え、指導しようとしています。人のあやまちと責任は追及しながら自分のあやまちと責任を軽く思ったり、否定したり、逃げようとするなら、それはイエスキリストに偽善者だと叱られたパリサイ人たちが異邦人のように神様を知らない、未信者の人の生き方と違いがない生き方でしょう。

今日のメッセージをとおしてみなさんは何を感じたのでしょうか。？

自分が間違った時は出エジプトを読みながら、目には目、歯には歯で返す生き方を、人が自分にあやまちを犯した時はマタイの福音書を読みながら心から赦し、愛で覆ってあげる人となりますように切にお祈り申し上げます。

このような歩みはきっとこの世の人々の目には愚かで、損になる人生のように見えるかも知れませんが、逆に成熟され、イエスキリストと似た者の真の姿です。そして、この信仰と行き方によって家庭が守られ、教会が守られ、社会が守られ、祝福される源となったと信じます。そのように信仰の面において完全な、成熟な人になるために今日も、今月も聖なる清い熱望をもって神様に切に祈り、そのようなキリストの愛を我々に豊かに注いでくださることを望んで生きるクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますように切に祝福しお祈り申し上げます。アーメン!